

アントレプレナーシップ

～実践の手引き～



神奈川県立麻生総合高等学校

1. アントレプレナーシップ：授業づくりの考え方

アントレプレナーシップとは、高い志と倫理観に基づいて、失敗を恐れず前に踏み出し、新たな価値を発見し、その価値を創造していくマインドです。予測困難で複雑な現代社会の中で、様々な困難や変化に対応し、自ら果敢にチャレンジする姿勢の育成が重視されています。高校でのアントレプレナーシップの授業では、社会に開かれた教育課程という視点も踏まえ、次の考え方を授業づくりに取り入れることが重要です。

- ① 生徒が時事的な内容、ビジネスの諸課題をテーマに学ぶことで、現代社会への関心・意欲を高め、ものの見方や考え方を広げることができるように授業内容を工夫する。
- ② 生徒が授業担当教員以外の外部講師、他の生徒の考え方に触れ、自分の考え方を広げることができるように、Project / Problem Based Learning（以下、PBL）の学習活動を取り入れる。
- ③ 生徒がアントレプレナーシップの授業で学んだことを、他の学びに活かせるように授業展開を工夫する。

この考え方のもとに、授業では最新の事例（成功事例や失敗事例）も踏まえ、その背景や理念を理解、議論し、集団で物事を展開する際の心構え（企業家精神）を一步一步、生徒と教員がともに学ぶことを目指します。

麻生総合高校では、情報ビジネス系列の系列選択科目として、2・3年次の生徒を対象にアントレプレナーシップの授業（2単位）を開講しています。（※商業科と地歴公民科の教員が2名で授業を担当しています。）

この手引きでは、アントレプレナーシップの開講や授業でPBLの学習活動を取り入れる際に役立つよう、3年間の麻生総合高校における授業実践、研究を踏まえて知見を紹介します。



2. 育成する生徒の資質・能力と到達目標

アントレプレナーシップの授業では、授業づくりの考え方、新しい学習指導要領の方向性、これからの社会で求められる資質・能力を踏まえて、育成する資質・能力を3つの柱とします。それぞれの柱に、生徒を主語として到達目標を設定します。各単元においては、この3つの資質・能力の育成を図る授業を展開します。

育成する資質・能力①「課題発見・分析力」 （「知識・技能」の習得）

【到達目標】

- ・課題についてそのポイントや背景を理解して、原因を分析することができる。
- ・授業などで学んだ知識を活かし、課題解決に向けて関連する情報を的確に収集し、役立てることができる。
- ・課題解決に向けた方向性を、自分たちで考え描くことができる。

育成する資質・能力②「プレゼンテーション力」 （「思考力・判断力・表現力等」の育成）

【到達目標】

- ・課題の分析から結論までを、論理立てて具体的に説明することができる。
- ・根拠を明らかにするために、適切かつ説得力のある資料やデータを複数用いて説明することができる。
- ・表現豊かに、聞き取りやすい適切な声量で発表することができる。

育成する資質・能力③「課題をやり遂げる力」 （「主体的に取り組む態度」の育成）

【到達目標】

- ・積極的にチームのメンバーや教員、外部講師とコミュニケーションを取ることができる。
- ・目標と計画を立てて、課題解決に向けて行動することができる。
- ・チームの中で自分なりのリーダーシップを発揮し、チームに貢献することができる。
- ・責任感とチャレンジ精神をもち、課題解決に向けて行動することができる。



3. 1年間の授業計画（単元の指導計画）

● オリエンテーション

※1回の授業を50分×2時間連続の展開、計35週とした場合の計画です。

回数	授業のテーマ	内 容
1	授業ガイダンス	単元の指導と評価の計画について説明を受け、生徒と教員の自己紹介を行う。
2	アントレプレナーシップを学ぶ前に	現代の社会、経済の動向と世界の企業、日本の企業の概要を学ぶ。
3	アントレプレナーシップに触れる	実際のアントレプレナーから講義を受ける。

① 単元：リーダーシップ

回数	授業のテーマ	内 容
1	リーダーシップの考え方	リーダーシップとは何かを講義、ワークを通して考える。
2	リーダーシップ・ワークショップ①	身近なリーダーシップと率先垂範、相互支援の考え方を学ぶ。
3	リーダーシップ・ワークショップ②	目標設定のポイントとチームでの合意形成の手法を学ぶ。
4	ワークショップの振り返り	ワークショップでの学びを振り返り、今後どう活かすかをまとめる。

② 単元：マーケティング（市場展開）

回数	授業のテーマ	内 容
1	サービス企業のマーケティング①	テーマパーク業界を題材に、マーケティングの考え方を学ぶ。
2	サービス企業のマーケティング②	飲食業を題材に、マーケティングの考え方を学ぶ。
3	P B L ① ※サービス企業との連携授業	外部機関の方から講義、テーマ提示を受ける。チーム結成を行う。
4	P B L ②	教員から講義（調査や発表方法など）を受け、テーマへの解決策を検討する。
5	P B L ③	テーマへの解決策を検討し、プレゼンテーションの準備を行う。
6	P B L ④	各グループからの発表を行い、講評を受ける。P B Lの振り返りを行う。

③ 単元：財務・資本調達

回数	授業のテーマ	内 容
1	資本調達の方法①	株式学習ゲーム（日本証券業協会提供）での株式の模擬売買を通じて、経済の仕組み、社会の動き、資本調達の方法を体験的に学習する。
2	資本調達の方法②	
3	ケーススタディ	コーポレートガバナンスや資本市場について、初歩的な考え方を具体例から学ぶ。

④ 単元：ストラテジー（競争戦略）

回数	授業のテーマ	内 容
1	メーカー企業の戦略①	国内外の具体的な事例をもとに、メーカー企業を取り巻く社会環境と戦略の立て方を講義、ワークを通して学ぶ。
2	メーカー企業の戦略②	
3	P B L ① ※メーカー企業との連携授業	外部機関の方から講義、テーマ提示を受ける。チーム結成を行う。
4	P B L ②	教員から講義（調査や発表方法など）を受け、テーマへの解決策を検討する。
5	P B L ③	テーマへの解決策を検討し、プレゼンテーションの準備を行う。
6	P B L ④	各グループからの発表を行い、講評を受ける。P B Lの振り返りを行う。

⑤ 単元：イノベーション（技術革新）

回数	授業のテーマ	内 容
1	イノベーションとは何か	企業とイノベーションの基礎について学ぶ。
2	イノベーションと企業	具体例をもとに、イノベーションをおこす企業とそのあり様を考察する。
3	P B L ① ※イノベーションに関する企業との連携授業	外部機関の方から講義、テーマ提示を受ける。チーム結成を行う。
4	P B L ②	教員から講義（調査や発表方法など）を受け、テーマへの解決策を検討する。
5	P B L ③	テーマへの解決策を検討し、プレゼンテーションの準備を行う。
6	P B L ④	各グループからの発表を行い、講評を受ける。P B Lの振り返りを行う。

⑥ 単元：フィロソフィー（哲学）

回数	授業のテーマ	内 容
1	経営哲学とは	経営哲学とは何かを、講義やワークを通して学ぶ。
2	経営者調査①	経営者調査の分担を行い、調査の進め方と発表方法を学ぶ。
3	経営者調査②	書籍やI C T機器などを用いて、経営者調査を行う。
4	経営者調査③	経営者調査のまとめと、プレゼンテーションの準備を行う。
5	発表会（プレゼンテーション）	経営者調査の発表会を通して学び合い、学習の振り返りを行う。
6	これからの企業家像とは	これまでの学習をもとに、これからの企業家像を考える。
7	1年間のまとめ	1年間の学習を振り返り、学んだことを今後どう活かすかを考えまとめる。

4. 授業計画の考え方

単元の構成	① リーダーシップ	② マーケティング（市場展開）	③ 財務・資本調達
	④ ストラテジー（競争戦略）	⑤ イノベーション（技術革新）	⑥ フィロソフィー（哲学）
考え方	<p>アントレプレナーシップの授業であるため、1年間を通して企業家としての考え方に触れ、その考え方を様々な場所で活かせるように学びを深めていくことを目的とします。高校生がこうした内容を学ぶ場合、学習の段階を踏まえ、無理のない形で興味、関心を深めさせていく工夫を授業計画に盛り込む必要があります。</p>		
授業開始から夏季休業の前まで	<p>オリエンテーションの段階では、本授業の学習領域は単元の構成にある通り多岐にわたる点を理解させます。次に、ともに研究、議論し課題解決に向けて取り組む仲間との接し方、チームで目標を達成するための手法について、外部機関とも連携してリーダーシップの単元で学びます。</p> <p>その後、ビジネスを初めて学ぶ生徒にも興味を持ちやすいサービス企業を題材に、マーケティングの考え方を理解させます。この段階で実際に外部機関（企業）との連携授業を行うことができると、理解の促進が期待できます。個人でのレポート作成、グループでの共有、発表を数回重ね、最終的に外部機関へ課題解決の提案までを体験し学ぶことが、夏季休業前までの主な計画です。</p> <p>本授業では、簿記を履修していない生徒が履修していることも想定されるため、企業活動の根幹である資金調達の考え方について、夏季休業前までの授業で扱います。</p> <p>夏季休業中には社会、経済の動き、株価の変動に注目させることも必要です。</p>		
夏季休業後から年度末にかけて	<p>夏季休業後は、事業の戦略と全社戦略を講義と企業との連携によるPBLで学びます。古典的な戦略の考え方の基礎を学習し、実際例として麻生総合高校では令和2年度に株式会社井村屋との連携によるPBLを行いました。あずきを中心とした事業戦略を実例を通して学び、生徒と教員がともに学びの多い時間となりました。</p> <p>10月からは、メーカー企業のイノベーションを学びます。日本の企業に最も重要な領域であるため、身近な商品事例を扱いながら理解を深めます。イノベーションに関わる外部機関（企業）とのPBLも行います。</p> <p>最終的にイノベーションなど経営上の工夫をもたらすものは、経営者の思考あるいは人生経験であるという点に着目して授業を展開します。具体的な経営者（企業家）を分析対象とした経営者調査を行い、プレゼンテーション（報告会）を行います。報告をさせ、学び合う中で1年間の学習のまとめを行います。</p>		

5. PBLの実践方法

PBLは、実社会で直面する問題やシナリオの解決を通して、基礎と実社会とを繋ぐ知識の習得、問題解決に関する能力や態度を身に付ける学習方法です。PBLは大学教育や高校での探究学習にも取り入れられており、アントレプレナーシップがめざす学習の方向性とも一致します。PBLでの学習ステップを踏まえて、3つの資質・能力の育成を図ります。

○ 学習の流れ（※麻生総合高校が株式会社井村屋と実施したPBLの例（50分×2時間連続授業、4週展開））

① 課題（テーマ）に関わる事前講義（50分） ※井村屋来校

- ・井村屋の会社概要（創業のきっかけ、会社の歴史、事業内容、業績など）
- ・井村屋を取り巻く市場環境と自社商品の特徴
- ・「あずき」について（あずきの歴史、効果、あずきを広めるための自社の取り組み）



② 課題（テーマ）の提示と質疑応答（50分）

- ・講義内容を踏まえて、生徒に課題（テーマ）を提示 **課題：「あずきをもっと、人気にするには？」**
- ・ミニグループワーク、講義内容や課題（テーマ）についての質疑応答

③ 課題解決、プレゼンテーションの準備（50分×4時間）

- ・チーム内での役割分担、新しい知識の習得、調査、分析、解決策を立案
- ・プレゼンテーションに向けたスライド作成、発表の練習



④ 解決提案のプレゼンテーションとアドバイジング（50分） ※井村屋来校

- ・各チームから、スライドを用いたプレゼンテーション
- ・井村屋の担当者から各チームへのアドバイジング、全体の講評



⑤ 振り返り・自己評価（50分×1時間）

- ・課題解決、プレゼンテーション、アドバイジングを踏まえた振り返り
- ・ルーブリックを用いて、自分の学習活動を自己評価

ワークシートに記述し、次の学習に活かします。

6. 外部機関との連携方法

アントレプレナーシップの授業計画では、生徒が自分の考え方を広げることができるようにPBLなどで外部機関、講師との連携をする機会を設けています。外部機関と連携した授業により、具体性の高い知識を得られ、課題解決を通じてチームで協働する楽しさや難しさ、問題解決の困難さを体験できるほか、教科書の記述を越えたものの見方や考え方、情報発信の方法を習得することができます。

連携にあたり
教員側が行うこと、
気をつけること

- ・教員が依頼先の事前調査（概要、特徴など）を十分に行う。
- ・授業での連携の依頼は、スケジュールを検討の上できるだけ年度初めに行う。
（※依頼が遅くなると、先約で埋まってしまうこともある。）
- ・連携の決定後、外部機関の担当者とメール等で連絡を密にとりスケジュール調整を行う。

主な方法① 「県立高校生学習活動コンソーシアム」を活用する ※神奈川県立学校の場合

県立高校生学習活動コンソーシアムには、多くの企業や研究機関、大学等が参加をしています。参加団体によっては、PBLなどの提供できる具体的な教育プログラムを準備しています。

※参加団体や依頼方法の詳細は、神奈川県教育委員会のホームページを御参照下さい。

URL → <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/koukou-conso/index.html>

主な方法② 学校が連携先を独自に開拓する

【連携授業を希望する外部機関がコンソーシアムに不参加の場合は…麻生総合高校での場合】

本校の場合、メーカーの戦略と創業者からの経営理念を学ぶ具体例として、例年の授業で扱っていた株式会社井村屋と連携授業を希望したいとなりました。そこで、授業担当者から井村屋のお客様相談室へメールを送り、担当者と連絡をとろうと試みたところ、連携授業の依頼をすることができました。井村屋の本社は三重県にあるため、本校への来校は難しいと考えていたところ、首都圏の拠点から社員さんが来校してくださり、連携授業を行うことができました。

連携授業を依頼する前提として、授業内容とそのねらいを明確にしたうえで担当者や電話やメール、時にはオンラインの活用により調整、打合せをする必要があります。依頼先が企業であれば、企業のCSRへの考え方も事前に調査をしたうえで、可能な限り来校して下さる方にも何か発見や気づきがある授業内容となることが望ましいと考えます。

7. 学びを深化させるための学習環境

アントレプレナーシップの授業、授業で行うPBLでは、知識の獲得、課題検討、発表など様々な学習活動が行われます。特に、PBLでは生徒が共同して学ぶ時間が多くあります。学習活動に適した学習環境を構築し、活用することで学びの活性化、深化につながると考えます。

○ 学びを深化させるために、必要と考える3つのコンセプト

基礎的な知識を身につけられるよう従来の机、椅子の配置ができるとともに、グループなどへの配置変更が容易であること。

個人での学習やグループでの学習など、多様な授業形態に対応できること。

ICT機器を活用して、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が高められること。

○ PBLにおいて生徒の学びを活性化、深化させる上で効果的な機器、環境

	内 容
1	グループワークを行うための什器（可動式のデスク、チェア、グループ共有用のホワイトボードなど）
2	プレゼンテーション環境（大型のスクリーン、プロジェクター、ポインター、音響設備など）
3	ICTを活用するための機器整備（タブレットパソコン、グループでの共有用モニターもしくはミニプロジェクター、ケーブル類、無線通信環境など）

○ 麻生総合高校で整備したAL（Active Learning）教室の様子



1. グループワークを行うための什器、機器類



2. プレゼンテーション環境



3. ICTを活用したグループワーク

8. アントレプレナーシップにおけるリーダーシップ教育

○ PBLにおける生徒の学習活動の特徴

問題を発見し、課題を解決

正解のない課題、問題に向き合い、解決策の検討に取り組むことを通して、課題（問題）の背景を理解し解決に向けた方向性を考察して、有効な解決策を立案する。

チーム（グループ）で取り組む

具体的な事例、課題や問題を題材として、**チーム**で具体的な解決策を検討し議論をすることで、他者と**合意形成**を図り共に学ぶプロセスを身につける。

メンバーの主体性を重視し相互支援する

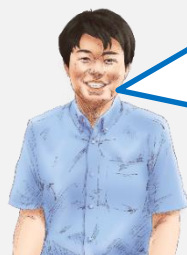
教員は生徒の支援者に徹し、**チーム**ではメンバーが相互に主体性を尊重しながら**相互に支援**し、問題を解決するための実行力を高める。

PBLなど授業の中で、また日常の学校生活の中で自然とリーダーシップを発揮できる生徒を育成するために、リーダーシップ教育を行うことが重要であると考えられます。

○ リーダーシップ教育の授業展開例

授業の到達目標

- ・「リーダーシップとは何か」を理解する。
- ・なりたい自分の理想像、組織の中で発揮したい自分を明確にして目標を共有する。
- ・他者を尊重して相互支援ができるようになる。
- ・合意形成の手立てについて理解し、グループワークなどの中で発揮できる。



リーダーシップ教育は、外部機関と連携して行うことが有効です。教育プログラムについて外部からの知見が得られるだけでなく、生徒と年齢が近い外部講師やファシリテーターの場合、生徒にとって話しやすい存在であり、身近なロールモデルになります。

※授業で扱うリーダーシップ

「権限なきリーダーシップ、全員発揮のリーダーシップ」



引用：日向野幹也（2008）『高校生からのリーダーシップ入門』

授業展開の例

※50分×4時間展開

① (50分×2時間) 身近なリーダーシップと相互支援を学ぶ

- ・導入：自分自身にとっての「リーダーシップ」とは何か？
- ・情報共有ワーク：自分自身のリーダーシップ行動に気づく
- ・個人ワーク：なりたい自分の理想像とその手段を考える
- ・グループワーク：なりたい自分の姿をグループで共有する
そのためのアクション検討



② (50分×2時間) 合意形成の手法を学ぶ

- ・導入：前回から本時までの自分自身、他者のリーダーシップ行動の振り返り
- ・個人目標設定：合意形成を得るために何を意識するか？
- ・コンセンサス（合意形成）ワーク
- ・個人目標の振り返り
- ・個人目標への他者からのフィードバック、まとめ



ご意見紹介

※麻生総合高校でリーダーシップ教育の連携授業を実践したことを踏まえてコメントをいただきました。

本科目でリーダーシップ教育のパートを担当した、株式会社イノベストの廣岡駿一です。弊社は全国約40の高校・大学でリーダーシップ教育の運営支援を行っています。

麻生総合高等学校では、21世紀型の「権限がなくても皆が発揮できるリーダーシップ」を意識し、授業担当の先生と打ち合わせを重ねながら授業を設計しました。ここで言う「リーダーシップ」は、役職に縛られずに各自の強みを活かした自分なりのリーダーシップで、授業のチームや部活動など、集団の目標達成に貢献する力を指します。

授業では、「リーダー」を設けずとも、チームメンバーが率先してリーダーシップ行動を相互に発揮することを促す教材を準備しました。その結果、内向的な生徒にとっても、自分なりのあり方でチームの目標達成に向かって自分ができる影響力の行使、すなわちリーダーシップの発揮が授業で叶ったものと思います。

アクティブ・ラーニングや探究学習など、他者との協働が鍵になる現代社会だからこそ、生徒たちが「自分なりのリーダーシップ」を身につけ、プロジェクト活動の成果を上げながら、他者との関わり方を深め、さらに充実した学校生活を送ってほしいと考えております。

9. P B L の 評 価 ～ループリックの活用～

アントレプレナーシップの学習は、レポート、ワークシートの提出による評価、グループワーク、発表などの評価が評価の中心となります。特にPBLでは、学んだ知識を活用して、個人やチームで課題発見、解決、発表を行うため生徒の主体性や思考力、表現力など生徒のパフォーマンスが活動の中心となります。

パフォーマンス評価には、ループリックを活用することが教員の評価、生徒の学びの質向上に有用とされています。ここでは、PBLの評価にループリックを活用する方法を紹介します。

教 員



- ・生徒の学習活動をループリックを用いて評価し、各観点の評価を点数化する。
→授業の成績評価に反映させる。
- ・項目間の相関を分析して、ループリックのブラッシュアップを図る。
- ・教員の生徒と生徒の自己評価を比較し、授業改善に活用する。

学 習 者 (生 徒)



- ・ループリックの到達目標を意識して、課題解決に取り組む。
- ・PBLなど課題の終了時に、ループリックを用いて自己評価を行う。
→振り返りのツールとして活用し、自身の到達度の確認や次の学習活動に向けた課題を把握する。

○ P B L の 学 習 活 動 に お け る ル ー プ リ ッ ク の 活 用 方 法

学習活動	教 員	生 徒
課題の把握	ループリック（評価の観点）を生徒に明示する。	ループリックを通して、到達目標を把握する。
課題の解決	ループリックを用いて、課題発見・分析力を評価する。	到達目標を意識して、課題解決に取り組む。
発 表	生徒の発表（プレゼンテーション力）をループリックを用いて評価する。	プレゼンテーション力の到達目標を意識して、発表に取り組む。
振り返り	ループリックを用いて、課題をやり遂げる力を評価する。教員の評価と生徒の自己評価を比較し、分析する。	学習の振り返りを行うとともに、ループリックを用いてPBLの自己評価を行う。

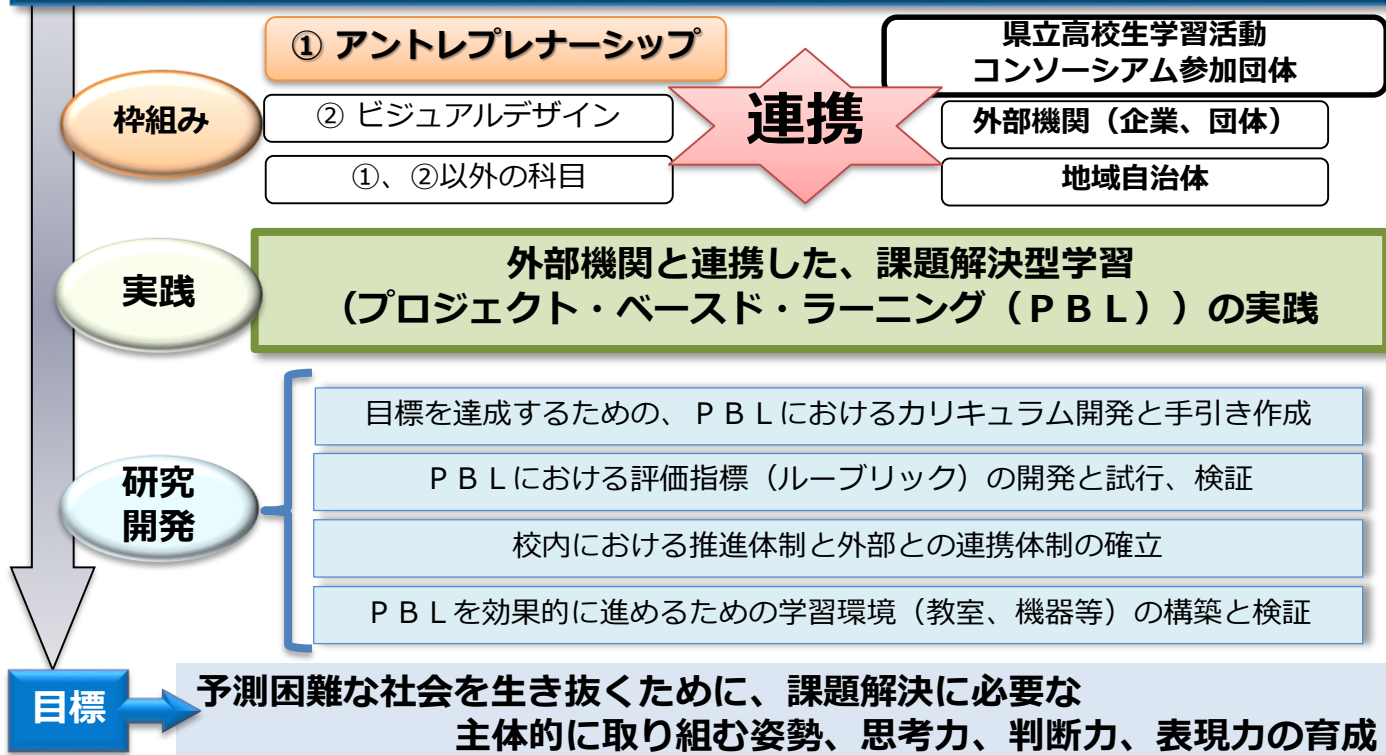
○ 麻生総合高校で開発したPBLのループリック

能力	観点	評価基準				
		5 (期待している以上である)	4 (十分に満足できる) 【到達目標】	3 (おおむね満足できる)	2 (努力を要する)	1 (相当の努力を要する)
課題発見・分析力	課題発見力 (課題をみつける力)	課題について、その全体像やポイントを理解し、自分なりの発見も加えながら他者にわかりやすく説明することができる。	課題について、その全体像やポイントを理解し、他者に説明することができる。	課題について、その全体像やポイントを説明まではできないが理解できる。	課題について、その全体像やポイントをあまり理解できない。	課題について、その全体像やポイントをほとんど理解できない。
	課題分析力 (課題を様々な角度から見る力)	課題について、その課題が生じた原因を理解してわかりやすく説明し、関連する情報を的確に収集することができる。	課題について、その課題が生じた原因を理解し、関連する情報を収集することができる。	課題について、その課題が生じた原因を理解し、どのような情報を収集する必要があるかがわかっている。	課題について、その課題が生じた原因が理解できておらず、どのような情報を収集する必要があるかわからない。	課題について、その課題が生じた原因に目を向けておらず、したがって原因を分析していない。
	知識の活用・応用力	これまでに学んだ自分の知識に加えて、自ら新たな知識を得て課題解決に取り組んでいる。	これまでに学んだ自分の知識を積極的に活用して、課題解決に取り組んでいる。	これまでに学んだ自分の知識を活かして、課題解決に取り組もうとしている。	これまでに学んだ自分の知識を活かして、課題解決に取り組んでいない。	これまでに学んだ自分の知識を活かして、課題解決に取り組もうという姿勢がない。
プレゼンテーション力	発表の工夫 (スライド・資料)	説得力のある資料やデータを3つ以上用いており、文字の大きさや情報量は十分に様々な工夫が感じられる。	説得力のある資料やデータを、2つは用いながら説明をしており、文字の大きさや情報量は十分である。	説得力のある資料やデータを、1つは用いながら説明をしており、文字の大きさや情報量は十分である。	説得力のある資料やデータを1つも用いておらず、情報量が不十分である。	説得力のある資料やデータを1つも用いておらず、十分な情報を聞き手に伝えようとしていない。
	発表での姿勢	ジェスチャーなど、身振り手振りを交えながら全体に聞こえるよう大きな声で堂々と発表している。	視線を挙げて聞き手をみながら、全体に聞こえるよう大きな声で堂々と発表している。	視線が下がることがあるが、全体に聞こえるような声で発表をしている。	声が全体に行き渡らず、原稿の文章をただそのまま読んでいる。	声が聞こえず、聞き手に伝えようという姿勢がない。
	発表内容の構成	正しく、流暢な言葉遣いで課題の分析から結論までを論理立てて、聞き手を引きつける説明ができる。	正しい言葉遣いで、課題の分析から結論までを論理立てて説明できる。	言葉遣いは若干雑だが、課題の分析から結論までを論理立てて説明できる。	発表として幼稚な言葉遣いであり、論理立てて説明ができていない。	課題の分析から結論に至るまでの流れができておらず、結論がわからない。
課題をやり遂げる力	チャレンジ精神	課題に取り組む中で、試行錯誤を繰り返して責任感を持ってレベルの高い成果物を作ろうと努力をしている。	課題解決に向けて、責任感を持ち挑戦しようという気持ちを高く持って成果物の作成に取り組んでいる。	課題解決に向けて、少しでも挑戦してみようという姿勢で成果物の作成に取り組んでいる。	課題解決に向けて、挑戦しながら取り組もうという姿勢や責任感をもって成果物の作成に取り組んでいない。	課題解決に向けて、挑戦しながら取り組もうという姿勢や責任感が見られない。
	計画性	目標を自ら設定した上で、ゴールを見据えて計画を立てて取り組み、その計画に沿って着実に進めている。	課題の解決のゴールを見据えた上で、計画を立ててその計画に沿って取り組んでいる。	課題の解決のゴールを見据えて、解決に向けた計画を立て、必要があれば計画を修正して取り組んでいる。	課題解決に向けた計画を立ててはいるが、計画が実際とずれておらず修正もしていない。	計画と目標の設定をしておらず、場当たり的な行動をとっている。
	チームワーク	自らチームのメンバーに提案したり、コミュニケーションをとるなどグループの中で自分なりのリーダーシップを発揮している。	メンバーと積極的にコミュニケーションをとって良好な関係を築き、自分の役割に責任をもって課題解決に向け取り組んでいる。	メンバーとコミュニケーションをとっており、自分の役割を理解した上で課題解決に向けて取り組んでいる。	自分から話したり提案したりすることはないが、グループの中で自分に与えられた役割は最低限果たしている。	自らコミュニケーションをとろうとせず、グループの一員として自分の役割を果たしていない。

ループリックの活用

- ・学習の方向と到達度が明確になり、学習者に主体的な学習を促す効果が期待できます。
- ・成績評価の観点と基準が明確になり、評価のあいまいさ、ばらつきが無くなります。

【研究テーマ】 社会に開かれた教育課程の実践を通じた
課題解決に向き合える人材の育成に係る研究



○ 3年間の主な研究経過 (取り組み)

年度	内容
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> 研修サービス提供企業によるリーダーシップの基礎、意思決定の進め方、効果的なプレゼンテーションをテーマとした連携授業の実施 アントレプレナーシップの授業で育成する資質・能力と到達目標の研究、設定 アントレプレナーシップの評価の研究、PBLにおける評価指標の研究、開発 外部企業と連携したPBLの実践 (株式会社岡田屋、株式会社東京ガス) 「高校生ビジネスグランプリ」(日本政策金融公庫主催)への参加 PBLを効果的に進めるための学習環境の研究、整備計画の立案
令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 研修サービス提供企業によるリーダーシップの基礎、発展編の連携授業の実施 アントレプレナーシップにおける評価の研究、PBLにおける評価指標の研究 (継続) 外部企業と連携したPBLの実践 (株式会社井村屋、株式会社大塚製菓) PBLを効果的に進めるための学習環境 (AL教室1・2)の整備
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 研修サービス提供企業によるリーダーシップの基礎、発展編の連携授業の実施 リーダーシップ教育についての研究 →これまでのリーダーシップ教育の取り組みや成果を「高校リーダーシップ教育カンファレンス」で発表 ビジネスプラン立案に向けた、外部機関との連携授業実施 (日本政策金融公庫) PBLを効果的に進めるための学習環境 (AL教室1・2)の整備 3年間の実践、研究を踏まえた『アントレプレナーシップ～実践の手引き～』を編集、発行



アントレプレナーシップ ～実践の手引き～ 令和4年3月1日 発行

神奈川県立麻生総合高等学校 E－提案制度 研究担当

編著：岩村 夏樹 (商業科・総括教諭) 曾根 健吾 (地歴公民科・教諭)

表紙：五位野 涼風 (芸術科・教諭)

〒215-0023 神奈川県川崎市麻生区片平1778 TEL: 044-987-1750 (代表)